

きいかもしれぬオーーム抵抗で減衰するかもしれぬが、対流運動のひきのばしで十分補われる。主系列に近すぎ、対流運動が衰えていく領域では磁場が漏れ戻って来て、むしろ安定な構造を取るであろう。晩期型星では原始磁場は表面で観測されなくても、表面対流層によって輻射コア内に封じ込められて残留している可能性があるということになる。普通の A 型星では原始磁場は早い回転に伴う大循環流で分断されて外の方は散逸率の高い場所で減衰し、内側に閉められた強い磁場は観測にかからない。

これに対し A 型特異星は強い磁場を持ち、かつ自転は遅いものが多い。この遅い自転は何に起因するかは興味深い問題である。林一フェイズではダイナモ製磁場と星風によるブレーキ機構が期待できるが、その期間が短い。原始磁場はこの期間晩期型星と同様対流で内部に閉じ込められているであろう。遠心力風は表面の遠心力

が重力より小さくなると効果的でなくなる。そこでメステルは星の磁気圏への星間ガスの付着を考えた。ガスはレイリー・テイラー不安定性で磁気圏を充たし、星と共回転を始める。星はしだいにのろくなり、磁気圏境界で遠心力が重力より小さくなると、付着したガスは直接星へ落込み始め星の回転速度は小さくなるというわけである。

A 型星を、自転は早く磁場の見えない普通のものと同様に強く自転ののろい特異型のものへ分ける分岐点は、回転に伴う大循環流と磁場のうちどちらが勝つかということにあるかもしれない。もし特異星が連星の一員であれば、連星であるために星の体内に生ずる色々の障害(例えば磁場分布の非対称など)が重要な要素になるかもしれない。

以上筆者の勝手な主観と臆測、メステル教授の受売りを通じて星の回転と磁場の関係の一端を紹介しました。

## 雑報

### 木星の衛星の名前

木星の第 V 衛星から第 XIII 衛星には、名前がつけられないままになっていましたが、惑星系天体の命名のためのワーキンググループの働きかけにより IAU 委員会は次の名前を採用することに決定したようです。もちろんこれらの名前の採用の正式決定は今年 8 月グルノーブルで開かれる IAU 総会においてなされるのですが、

衛星	名前	発見者	発見年
satellite V	Amalthea	Barnard	1892
" VI	Himalia	Perrine	1904
" VII	Elara	"	1905
" VIII	Pasiphae	Melotte	1908
" IX	Sinope	Nicholson	1914
" X	Lysithea	"	1938
" XI	Carme	"	"
" XII	Ananke	"	1951
" XIII	Leda	Koowal	1974

この内第 V 衛星の Amalthea は C. Flammarion によって提唱されここ数十年にわたって非公式に用いられて来たものです。

Amalthea は Jupiter を育てた山羊の名前とも、妖精の名前ともいわれています。

第 XIII 衛星の Leda は発見者 C. Kowal によって提案された名前での星に、白鳥と化した Jupiter に言い寄られる美しい乙女を思わせる何かがあるのでしょうか。

歴史的にみても私達にはギリシャ・ローマ神話を自らの血・肉として受け入れる要素が少ないので、それぞれの名前を確かにそれと判定できないのですが、この他にも第 VIII 衛星 Pasiphae は“アリアドネの糸”で有名な Ariadne の母の名でしよう。

しかし今回の命名は、これらのことの他に J. Blunck の提案によって順行衛星には末尾が a で終る名前を、逆行衛星には e で終っているものが選ばれていることです。ややきどりすぎの感なきにしもあらずですがおもしろい試みともいえましよう。

(永井隆三郎)

## 学会だより

### 大塚奨学金希望者募集

☆天文月報 8 月号ですでお知らせしたように大塚奨学金希望者を募集しております。希望される方は 9 月 16 日までに理事長宛にお申し込み下さい。今年から旅費滞在費としてのみでなく、フィルム、乾板等研究材料の購入費にもあてられるようになりました。

### 会費納入のお願い

☆会費未納の方には 7 月 10 日付書面で納入をお願いしましたが、会の円滑な運営のためできるだけ早く納入下さるよう重ねてお願いします。

### 秋季年会について

☆講演時間は 1 講演 7 分ですのでスライドの数は 1 枚 1 分を目安に枚数を考慮下さるようお願いいたします。